



図-4.1.1 限界状態設計法による照査体系

表-4.1.1 限界状態設計法に用いる安全係数の標準値

安全係数		荷重ケース	使用限界状態	終局限界状態				
				地震時以外	地震時			
					レベル1	レベル2		
					横断・縦断方向	縦断方向	横断方向	
			制限応力度の照査 <sup>*1)</sup>	終局耐力の照査	破壊モードの判定	終局耐力の照査		
材料係数	コンクリート $\gamma_c$	1.0	1.3	1.0	1.3			
	鉄筋 $\gamma_s$	1.0	1.0		1.0	1.0/1.2 <sup>*2)</sup>	1.0	
	鋼材 $\gamma_s$	1.0	1.05		1.05	1.05/1.2 <sup>*2)</sup>	1.05	
部材係数 $\gamma_b$	曲げ，軸方向耐力	1.0	1.15	1.0	1.15	1.0	1.15	
	軸圧縮耐力の上限値	1.0	1.3	-	1.3	1.3	1.0	
	せん断	コンクリート	1.0	1.3	-	1.3		
		鋼材	1.0	1.15	-	1.15		
構造解析係数 $\gamma_a$		1.0	1.0					
構造物係数 $\gamma_f$		1.0	1.2 (異常時 1.0)	1.0				

\*1) 構成材料に発生する応力度で照査を行う。発生応力度の制限値は表-4.1.2による。

\*2) 破壊モードの判定に用いる材料係数は、曲げ耐力の算定に実引張降伏強度（材料規格値の1.2倍程度の値）を考慮して、1.05/1.2とした（「コンクリート標準示方書 耐震設計編」に準拠）。

訂正箇所：1.3